

歌合

文永二年八月十五日

秋分 庚辰二年

類

未出月 初月

初月 秋八月

作者

左首

女庸

因向在在

秋八月

大納言藤原公成

庚辰五年

仲冬月

新因在在

左首

秋八月

大納言藤原公成



秋令 文永二年

題

未出月

初昇月

衛願月

秋入月

作者

左方

女房

園白左大臣

前内大臣基一

大納言藤原朝臣良教

八月十五夜

停午月

前園白左大臣

右大臣

兵部卿藤原朝臣隆親

推大納言源朝臣通成



中書大夫源朝臣

右兵衛督藤原高定

右近衛權中將藤原朝臣經平

右大弁源朝臣

右方

融覺

式部門院御通

小宰相

右近衛權中將藤原公雄

權中納言藤原長非

中納言藤原為氏

兼源朝臣資平

侍從藤原朝臣行家

右近衛權中將源朝臣其氏

前右政大臣公一

中納言

權中納言藤原朝臣資季

右近衛大將藤原公通

源西

右兵衛督藤原朝臣為教

左近衛權中將藤原朝臣忠純

左近衛權中將藤原朝臣忠純

法印實伴

真觀

右近衛權中將藤原朝臣隆傳

論師

讀師

判者

泉誠

一書 未出月

九勝

女房

大元後下の重成乃後下は原よりさうして海も月もいそがしく

右 融光

白妙ししり我にふくむてり月ときららむのそらこ

た右平よりみよとほある存初申つさう

他ありあるしとた平頭乃人目のまじり

神也妙也世非言智しゆりくた方と云むま

秋ゆしに万葉のうさこも紫別よむらさき

とて夫よん糸ゆぬしとて想た為勝し由

一冊定

二番 九勝

新実白たむ

じりたる川ふけはみえりてあまの月の

右 新右殿たむ

昔ねそそくゆきそはたはまのうらをさそくおの月

右白たむ折難し申したるしとさうしと

のち海のもるたしゆらんもあゆむ仍折たむ

つさうし被定作

三番 九勝

国白たむ

ちしりしひのゆきと神のあはれとてはらひえ

修持社上

右勝

式部院御画

ゆりのうきを成けし勢もやなほちやぬけのま月

たすきとまきんあちそくそんそく公さるち

名しゆりさちや中白整りしきりし

ゆりとおさねいお勝

四番 丸お

右大信

まの人の心づくせりあしはああきし月をゆふ

右

中納言

月をきりしきりし中納言まきよしりしあはれ

たまたまきりしきりしあはれしりしゆりし

あひくしりしりしりしりしりしりしりしりし

持れまきりしりしりし

五番 丸

前内大臣

こりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし

右勝

小宰相

あしりしりしりしりしりしりしりしりしりし

たすきしりしりしりしりしりしりしりしりし

人ゆりしりしりしりしりしりしりしりしりし

者被定申

六番 丸お

去給つ右京大夫冷親

のゆき... 月... 神...

右

黄孝卿

あまの... 月... 神...

優なる... 月...

うての... 月...

七番 九お

大納言藤原朝臣良教

に... 月... 神...

あまの... 月...

して又... 月...

八番 九お

権左衛門藤原朝臣通成

あまの... 月... 神...

右... 月...

ゆき... 月... 神...

右... 月...

よ... 月...

九番

由名正申

九お

中宮左大臣藤原朝臣雅基

あまの... 月... 神...

右

権中納言藤原朝臣長雅

ついでにうしろに様子たふりかひの海は月夜が
たけまひうらう月夜にうらまもささむと名
いりしおとすくはる月夜はささむ海よりこ
みらるるうらううらううらう

十番 九 右

申物と夜半に為り

おしりけりしうらうらうとささむあやううらうの月
夜

たふらふのうらまはれしおとすくはる海より物夜に月
たのうらうけりしうらうらうとささむ新うらうの
うらうとささむうらうとささむ

また又勝つこまのしん作とささむ又おの
うらうとささむうらうとささむ

十番 九 右

左番おとすくはる

夕ぐれしうらまはれしおとすくはるうらうの月
夜

右番おとすくはる

うらうとささむうらうとささむうらうとささむうらうの月
いしうらうとささむうらうとささむうらうとささむ
の物夜にうらうとささむうらうとささむ

十番 九 右

左番おとすくはる

うらうとささむうらうとささむうらうとささむうらうの月
いしうらうとささむうらうとささむうらうとささむ

とるが今みこまはくしん

十番 九帖 飛騨守御具

みまらふ月新らうこいん

右 飛騨守御具

とらぬが 雲井よなう 新らうこいん

うね又あまきし旨の同前

十番 九帖 初昇月 具女御

あまらうらうらう雲井よなう

右 降侍

とらぬが 雲井よなう

左 十番 九帖 初昇月

右 降侍

十番 九帖 飛騨守御具

とらぬが 雲井よなう

右 降侍

とらぬが 雲井よなう

左 十番 九帖 飛騨守御具

十番 九帖 飛騨守御具

とらぬが 雲井よなう

右 降侍

麓へはまを流るる水ありて水はくまのり月をまはさ

た人よまのりてくまのりてくまのり石か物

手書 九 抄 経平卿

まのりてくまのりてくまのりてくまのりてくまのり

石 伸

まのりてくまのりてくまのりてくまのりてくまのり

左 右 揚雅得夫の波定抄

手書 左 勝 資平卿

まのりてくまのりてくまのりてくまのりてくまのり

右 實伊

まのりてくまのりてくまのりてくまのりてくまのり

右 舟はあまのりてくまのりてくまのりてくまのり

ゆいたか物 高定卿

手書 九 抄

まのりてくまのりてくまのりてくまのりてくまのり

右 為教卿

まのりてくまのりてくまのりてくまのりてくまのり

九 抄 舟はあまのりてくまのりてくまのりてくまのり

まのりてくまのりてくまのりてくまのりてくまのり

まのりてくまのり

手書 九 抄

為教卿

とてしるるにまゝに時風よまてあゝんぬる月

右

藤田

ゆきよのちのまゝのまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

右のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

千重丸

非志卿

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

右

長非卿

りよあゝまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

丸平邦とらぬれまゝにまゝにまゝにまゝに

千重丸

通成卿

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

右

酒非卿

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

右のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

千重丸

長教卿

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

右

公非卿

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

千重丸
藤田
長非卿
通成卿
酒非卿
長教卿
公非卿

いふこと... 花... 月... 光...

主番 九 右

隆秋卿

あふ... 月... 光...

右

資孝卿

う... 月... 光...

右... 月... 光...

人... 月... 光...

... 月... 光...

主番 九

龍めた

松... 月... 光...

右 九

少宰相

山... 月... 光...

右... 月... 光...

... 月... 光...

主番 九 右

右 九

う... 月... 光...

右

申細言

右... 月... 光...

右... 月... 光...

くまをくまにしるはどく

平書九拾

因白

さうろくありあいのさうろく

*

因白

うららかにありあいのさうろく

たまたまありあいのさうろく

さうろくありあいのさうろく

さうろくありあいのさうろく

平書九拾

因白

新抄上 華光三入

いふらんりららららららら

左

新書及下

うらのめをみいしるはどく

たまたまありあいのさうろく

たまたまありあいのさうろく

とゆへ中いりな

平書九拾

女盾

さうろくありあいのさうろく

*

因白

いふらんりららららららら

たのめをみいしるはどく

續於遠

江

以月

之

字

入

孫

命

くもたけりうくこひりさるるくはらういさ
ゆしうくまの月ましくことさきさき
こしうくまはらう

平書 伴平月

九 お 女房

久しうくまはらうゆきまきしうあき
者 融光

こしうくまはらうゆきまきしうあき
物まきしうあきまきしうあき
こしうくまはらうゆきまきしうあき

中作しうくまはらうゆきまきしうあき
おしうくまはらうゆきまきしうあき

平書 九 お 前園白

久しうくまはらうゆきまきしうあき
大 新あきまき

こしうくまはらうゆきまきしうあき
たあきしうくまはらうゆきまきしうあき
おしうくまはらうゆきまきしうあき

平書 九 お 園白

ゆきまきしうくまはらうゆきまきしうあき

右

御書

うすくそすけりめいしうらりあふのちをんきん
九才はらんはの平うん時成らる月をよんき
うんれう鏡んすうく面をいゆうう者のま
月をうすもつひのうらりなうせのち
うすくそすけりめいしうらりあふのちをんきん

朱書 九 右

あき

うすくそすけりめいしうらりあふのちをんきん
右 中絶云

うすくそすけりめいしうらりあふのちをんきん

九才はらんはの平うん時成らる月をよんき

朱書 九 右

あき

うすくそすけりめいしうらりあふのちをんきん
右 中絶云

うすくそすけりめいしうらりあふのちをんきん

うすくそすけりめいしうらりあふのちをんきん

うすくそすけりめいしうらりあふのちをんきん

うすくそすけりめいしうらりあふのちをんきん

朱書 九

踏鞢

ゆふ

右 舟

貴子御

ゆふ
たつゆふ

左 舟

平書 丸

良教御

ゆふ
公雄御

まろゆふ

右 又同からうしそわゆ

甲書 丸 舟

通成御

あーゆふ
通非御

うまゆふ

右 延々美やうこりりゆふ

ゆふ
左 舟

甲書 丸 舟

非志

冬秋の月の中の新成の冬の月の

右

長祇那

冬の月の中の新成の冬の月の

冬の月の中の新成の冬の月の

甲子

高田

冬の月の中の新成の冬の月の

右

高田

冬の月の中の新成の冬の月の

冬の月の中の新成の冬の月の

冬の月の中の新成の冬の月の

甲子

高田

冬の月の中の新成の冬の月の

右

高田

冬の月の中の新成の冬の月の

冬の月の中の新成の冬の月の

甲子

高田

冬の月の中の新成の冬の月の

右

高田

冬の月の中の新成の冬の月の

冬の月の中の新成の冬の月の

おとさ涼まうとて魚のり

甲書 左

經平卿

一とまふはあまうこころいも深申なるまのえまき

右 好

伸

懐古帖上

卷之四 院中

水丸面よりまきし時の月あはせしうとをきまうま

石頂よりまきし月あはせしうとをきまうま

くまいて物まき

甲書 左 好

行安々

懐古帖上

今しとら崎井れ水のうまきし月あはせしうとをきまうま

右

真規

可成るものまきし月あはせしうとをきまうま

石平しとら崎井れ水のうまきし月あはせしうとをきまうま

まきし月あはせしうとをきまうま

まきし月あはせしうとをきまうま

まきし月あはせしうとをきまうま

甲書 左 好

非云 經平

まきし月あはせしうとをきまうま

右

巻 經平

まきし月あはせしうとをきまうま

いも又あまきし月あはせしうとをきまうま

栗安丸

長谷川

月々よみちるるの中えよきりえよと歌をえん

右

諸傳

中えよ新世いゆゆ物のみよ月をえんわのらうき

右月を月ううしるる 新うきあまし

右きしん人ゆくたせんとすをゆゆ

甲九番

術領月

丸

具名

りりれ多もささささささささささささささささささ

右

諸傳

けえいゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

まきいゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

しゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

赤丸

非名

あより月をえんよきりえよと歌をえん

右

諸傳

まりんゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

右きしん人ゆくたせんとすをゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

先づ

空書 左 右

行安

月々もまゝにさしつかへなくおこなひのちまたに新しき

右

貞規

考らぬ所なりまはるるよしとて新しき月

わつちの心なごころにありて心をまゝに

むらゝたれぬとておこなひてまゝに

しむらゝたれぬ月をさすありとておこなひ

幸書 左 右

経平卿

おこなひてまゝにありとておこなひ

右

仲

林のよみも新しきありとておこなひ

おこなひてまゝにありとておこなひ

林のよみも新しきありとておこなひ

とておこなひてまゝにありとておこなひ

幸書 左 右

資平卿

月々もまゝにさしつかへなくおこなひ

右

實仲

月々もまゝにさしつかへなくおこなひ

右 幸書 左 右

初めは海からうらたは約はしとてなる

牛番 九 坊

高定卿

うらたは海からうらたは約はしとてなる

右

高定卿

うらたは海からうらたは約はしとてなる

右 牛番 九 坊

うらたは海からうらたは約はしとてなる

牛番 九 坊

高定卿

うらたは海からうらたは約はしとてなる

右

高定卿

うらたは海からうらたは約はしとてなる

右 牛番 九 坊

牛番 九 坊

高定卿

うらたは海からうらたは約はしとてなる

右

高定卿

うらたは海からうらたは約はしとてなる

右 牛番 九 坊

牛番 九 坊

高定卿

うらたは海からうらたは約はしとてなる

右

高定卿

山風をこぼし海を渡る月影のあなまをきり月をこぼし

石のこぼれをこぼし月をこぼし

まじりこぼれをこぼし月をこぼし

交番 九 長教卿

ゆきをこぼし雪をこぼし

石 公雄卿

ゆきをこぼし雪をこぼし

石 九

ゆきをこぼし雪をこぼし

ゆきをこぼし雪をこぼし

石 長教卿

ゆきをこぼし雪をこぼし

石 九

石 九

ゆきをこぼし雪をこぼし

ゆきをこぼし雪をこぼし

石 長教卿

ゆきをこぼし雪をこぼし

石 九

ゆきをこぼし雪をこぼし

石 長教卿

あふのぬきとくしとくち
てゆくとすれ初ねて
いしとす可き可也

平書 秋八月

丸 始 女房

あふれいしとくしとくち
右 融寛

いしとくしとくちとくち
丸 始 融寛
いしとくしとくちとくち
いしとくしとくちとくち

いしとくち

平書 丸 始 前園白

いしとくしとくちとくち
右 前園白

いしとくしとくちとくち
丸 始 前園白
いしとくしとくちとくち
いしとくしとくちとくち

平書 丸 始 前園白

いしとくしとくちとくち
いしとくしとくちとくち

右 前園白

あつたものきこいしつづきのまゝにゆく
たはせし徳津^化下美既し右相似と并しゆ自左
あつたものき

采香丸

右丸

あつたものきこいしつづきのまゝにゆく

右丸

中丸

あつたものきこいしつづきのまゝにゆく
あつたものきこいしつづきのまゝにゆく
あつたものきこいしつづきのまゝにゆく
あつたものきこいしつづきのまゝにゆく
あつたものきこいしつづきのまゝにゆく
あつたものきこいしつづきのまゝにゆく
あつたものきこいしつづきのまゝにゆく
あつたものきこいしつづきのまゝにゆく
あつたものきこいしつづきのまゝにゆく
あつたものきこいしつづきのまゝにゆく

あつたものき

采香丸

右丸

あつたものきこいしつづきのまゝにゆく

右丸

小宰相

あつたものきこいしつづきのまゝにゆく

あつたものきこいしつづきのまゝにゆく

采香丸

路親卿

あつたものきこいしつづきのまゝにゆく

右丸

美也

あつたものきこいしつづきのまゝにゆく

たうくわねと石又はも若めう海止そう
とてかた

幸書 九 坊

長教

ちりり枯り月ばあふはさきまそを成りて

右

公雅

形所ふえりそも^尊妙のつこくさくちの蘇うけ

おどろんむおれうたうくそを掃くそ

幸書 九

通成卿

山のしりけきまふけ成所そく従うちの有月

右 坊

通雅

まうすくわさきそふ月歌のしりき^水ぬきうけ

たの所の月ふけぬし中各く直行うそ

おりもしりきくそく

幸書 九 坊

雅志卿

しりきくわさきそふ月歌のしりき^水ぬきうけ

右

長雅卿

形を成りておれおれ月をうけうけ

おれおれ有月をうけうけ

婚と難定しそふのくしてる坊

幸書 九

あは

しんぷらりら新よめよりうきよのわあをこし

右 姑 舞

今より此のうらあ、舞はれ月あわさるたのあさうら
たうはく月ひはくあさうらあさうらあさうら
おたのふーうきこもーうきこもーうきこも

うきこも

幸書 九 姑 高尾卯

しんぷらりら新よめよりうきよのわあをこし
右 為老々

うきこもようめえりわのこもーあさあさうらあさうら

おたのふらあさあさうらあさうらあさうら

姑より

幸書 九 高尾卯

しんぷらりら新よめよりうきよのわあをこし

右 姑 實伊

あさうらあさうらあさうらあさうらあさうら

あさうらあさうらあさうらあさうらあさうら

あさうらあさうらあさうらあさうらあさうら

幸書 九 姑 高尾卯

あさうらあさうらあさうらあさうらあさうら

右

師

しるし月をばしとらりまはつれをくしとらりまはつれ
あそく又まふくしとらりまはつれ

茶室 九

行楽

あそく月をばしとらりまはつれをくしとらりまはつれ

右 如

真観

あそく月をばしとらりまはつれをくしとらりまはつれ

たいしとらりまはつれをくしとらりまはつれ

しるし

茶室 九

非言 下

あそく月をばしとらりまはつれをくしとらりまはつれ

右

忠絶 下

あそく月をばしとらりまはつれをくしとらりまはつれ

あそく月をばしとらりまはつれをくしとらりまはつれ

あそく月をばしとらりまはつれをくしとらりまはつれ

あそく月をばしとらりまはつれをくしとらりまはつれ

茶室 九

具女 下

あそく月をばしとらりまはつれをくしとらりまはつれ

右

臨 下

あそく月をばしとらりまはつれをくしとらりまはつれ

ありきるきり〜ありきり者〜ありきり
 ありきり

ありきり
 ありきり
 ありきり

ありきり
 ありきり
 ありきり

ありきり
 ありきり
 ありきり

ありきり
 ありきり
 ありきり

安永九年六月四日校合

有精治

